

大項目	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)－1 適時適切な収集							
【年度計画】 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (東京国立博物館) 日本を中心として広くアジア諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸研究部列品管理課		事業責任者	課長 富田 淳				
【実績・成果】 本年度の購入物件はない。								
【補足事項】 運営費交付金が削減された状況で、東洋館の再開館に必要な演具・備品等の取得や収蔵品の再配置に予算を振り向けざるを得なかったため、購入費の捻出が困難であった。 なお、東京国立博物館収蔵品から考古1件(重文)を九州国立博物館へ管理換した。								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品件数	113,897件	—	—		112,439	112,529	112,776	113,258
うち国宝	87件	—	—		87	87	87	87
うち重要文化財	631件	—	—		619	622	624	629
購入件数	0件	—	—		13	7	8	4
総合的評価	S A B C (F) (S、Fの理由)購入予算がないため。							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				要注意				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)-1 適時適切な収集								
【年度計画】 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。									
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝						
【実績・成果】 ・博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品 13 件を購入した。従来から所蔵する優れた一括資料のうち、須磨コレクションの中国近代書画に絵画 4 件を加え、長尾雨山関係資料に絵画 1 件、書跡 2 件を加えた。その他に近世絵画 2 件、金工 1 件、染織部門の小袖の系統的収集を充実させる 2 件、人形 1 件を購入した。 ・内訳：絵画 7 件、書跡 2 件、金工 1 件、染織 3 件 ・決算額 48,422,500 円									
【補足事項】 ・円山四条派を主とする京都文化が中国絵画の近代化に与えた大きな影響を如実に示す須磨コレクション(1,000 件)に 4 件の新たな購入を加えた。齊白石筆大鶏小鶏図、蘇仁山筆山水図冊(全九図)、張大千筆山水図(黄山文殊院)、朱嶠筆古松瑞雲図の 4 件の絵画は、近代中国と日本との深い交流を証する貴重な資料でもあり、中国近代芸術の一級資料でもある。この領域で当館ほど良質の資料が集中している施設は中国も含めて世界でも数少ないが、その中核である須磨コレクションの一部を遺族のご厚意により一括して購入でき、さらに収集の厚みと資料相互の関連性を増すことができた。須磨コレクションは、遺族との信頼関係のもと寄託、寄贈を受け続けてきているものであり、今年度末に開催し、その優れた内容が国際的にも高く評価された「中国近代絵画と日本」展においても展示活用した。 ・京都には清の滅亡に際して多くの明清美術がもたらされ、多くの中国美術コレクターが活躍した。特に長尾雨山をはじめとする近代京都の文人と中国文化人との交流は特筆される。本年度は当館の長尾雨山関係資料をさらに充実させるため、鄭孝胥寄雨山尺牘卷、呉昌碩筆額字「漢博斎」と徐悲鴻筆梅枝双鳥図の 3 件を加えた。 ・金工は 10 世紀に遡る銭弘俣八万四千塔の一例で、中国五代と日本の平安時代の仏教信仰の有様と交流をあらわす好資料である。 ・当館の染織収集の目標のひとつは館蔵品によって小袖の歴史を辿れる系統的収集であり、染分縮緬地文字入扇面桜・橋に松梅文様友禅染繡小袖はまだ充実していない部分を補う友禅染爛熟期の作例でしかも保存状態の良さは類例希である。淡浅葱麻地宇治景文様友禅染繡帷子は全面にわたって宇治の景色のみを取り上げた非常に珍しい文様をもつ。衣裳人形狸々は入念な作りで、光格天皇が皇女に贈り宝鏡寺に伝わる例とほぼ同時期、同じ環境で使われたと思われるもの。 ・その他に、水鳥と犬を題材とする 17 世紀の大変珍しい風俗画屏風である春秋禽狗遊楽図、文晁が「集古十種」編纂のため近畿を訪れた際に作成され、大阪の南画家に贈られた縮図で、文晁の古書画学習の様を伝える文晁墨宝(須磨コレクションの 1 でもある)を購入した。									
									
									
		(左)淡浅葱麻地宇治景文様友禅染繡帷子 (右)齊白石筆大鶏小鶏図							
【定量的評価】項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
収蔵品件数		6,621 件	—	—		6,386	6,417	6,526	6,584
うち国宝		27 件	—	—		27	27	27	27
うち重要文化財		177 件	—	—		177	177	176	177
購入件数		13 件	—	—		36	8	7	23
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)－1 適時適切な収集							
【年度計画】 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (奈良国立博物館) 仏像、仏画、経典・仏教関係書跡等、仏教工芸、仏教考古資料の中から重点的に購入する。								
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹					
【実績・成果】 購入により4件の文化財が新たな収蔵品として加わった。 ・絵画 紙本墨画渡唐天神像 1幅 江戸時代(17世紀) ・彫刻 木造阿弥陀如来坐像 1軀 平安時代(9～10世紀) ・書跡 紙本墨書万崑嶋主解 1枚 奈良時代 天平宝字2年(758) ・書跡 紙本墨書足利義満書状案 1幅 南北朝時代(14世紀) 決算額は102,250,000円。								
【補足事項】 ・絵画部門の購入品のうち渡唐天神像は、文字絵の体裁をなす渡唐天神像であり、筆者の近衛信尹は寛永の三筆に数えられる文人。 ・彫刻部門の阿弥陀如来坐像は平安時代前期制作と考えられ、図像の上で定印を結ぶ最初期の作例のひとつとして貴重なもの。 ・書跡部門の2件のうち万崑嶋主解は正倉院宝庫から流出した古文書の一つで、万崑嶋主が官に提出した休暇届。当時を生きた人々の生活の一端を窺い知ることができる貴重な史料。足利義満書状案は、室町幕府第3代将軍である義満が、興福寺別当職に或る僧侶を推薦する内容で、幕府が興福寺の人事に干渉していたことを示す史料。								
								
紙本墨書万崑嶋主解								
【定量的評価】 項目	23年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
収蔵品件数	1,831件	—	—		1,794	1,805	1,812	1,827
うち国宝	13件	—	—		12	12	12	13
うち重要文化財	109件	—	—		107	108	110	109
購入件数	4件	—	—		2	7	4	7
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)-1 適時適切な収集								
【年度計画】 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していく。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。									
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長 臺信祐爾						
【実績・成果】 ・当館のテーマである日本とアジア諸国との文化交流の足跡を示す作品を収集する一方で、日本の王朝文化を象徴する作品として、優れた文化財を17件購入した。 ・購入 17件 (内訳：絵画3件、書跡3件、彫刻1件、染織2件、考古1件、歴史資料7件) 決算額：569,350,000円 ・編入 2件 (内訳：絵画1件、考古1件)									
【補足事項】 ・絵画分野では、日本の王朝文化を伝える典型例の一つとして重要である「紙本著色病草紙断簡(尿を吐く男)」の他、仏画「絹本著色阿弥陀浄土図」、水墨画「絹本墨画羅漢図」を購入した。当館はすでに同じ病草紙断簡2幅「紙本著色病草紙断簡(侏儒)」、「紙本著色病草紙断簡(せむしの乞食法師)」を収蔵しており、「地獄草紙」(国宝、東京国立博物館所蔵)や「餓鬼草紙」(国宝、京都国立博物館所蔵)に匹敵する優れたコレクションとして、今後の活用が期待できる。 ・書跡資料の「紙本墨書舎人国足願経」は、書写年代と旧蔵場所が明確な奈良時代前期の写経として、貴重であり、「紙本墨書足利尊氏願経」は南北朝時代を代表する写経で、文化・宗教・政治史研究上に貴重であるばかりでなく、宋・元版をテキストとして用い、対外交渉の関係をj知る上でも重要である。 ・彫刻分野の「地蔵菩薩遊戯坐像」は、対馬に伝来した韓半島の彫刻として当館の文化交流というテーマに適した貴重な仏像である。 ・染織分野では、貿易染織資料として価値の高い「端物切本帳」13冊の他、墨書銘のあるシャム更紗「緑地花菱繫ぎ文更紗」を購入した。 ・考古分野では、経筒としては珍しい白磁経筒を購入した。 ・歴史資料としては「朝鮮通信使川御座船図六曲屏風」「紙本墨書今川了俊書下」「紙本墨書島津氏等文書集」「紙本墨書朝鮮通信使進物目録」「紙本墨書豊臣秀吉朱印状 遠藤彦右衛門・助二郎宛」「紙本墨書豊臣秀吉朱印状 高麗国中宛」「紙本墨書豊臣秀吉朱印状 蜂須賀阿波守宛」など、九州方面に縁の深い資料を購入した。 ＊上記の収集品の他、平成23年4月1日付けで重要文化財 彩画人馬鏡 1面が東京国立博物館より無期管理換された。また、「金銅阿弥陀不動毘沙門天像懸仏」1面が寄贈され、「絹本著色柳舜翼像模写」1幅を列品に編入した。									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
収蔵品件数		453件	—	—		333	370	397	433
うち国宝		3件	—	—		3	3	3	3
うち重要文化財		29件	—	—		24	25	27	28
購入件数		17件	—	—		42	30	27	31
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



紙本著色病草紙断簡
(尿を吐く男)

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用							
【年度計画】 (4館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 富田 淳					
【実績・成果】 1) 作品の寄贈については7名の所蔵者から、151件の文化財を受け入れた。 絵画：12件 書跡：33件 陶磁：1件 漆工：22件 東洋書跡：44件 東洋陶磁：34件 東洋漆工：5件 ・新規寄託品は7件あった。 ・登録美術品の、増減はなかった。								
【補足事項】 ・絵画の寄贈品のうち、「中島和田右衛門の丹波屋八右衛門」は、写楽の同図柄として世界に一点しか知られていない貴重なものである。 ・漆工の寄贈品のうち、20件は動物を主題とした印籠や根付であり、装身具に関する展示のみならず、干支などの各種動物をテーマにした展示に活用することができる。 ・東洋書跡の44件、東洋陶磁の34件、東洋漆工の5件は、平成25年に新装開館予定の東洋館における展示を充実させるものである。 ・寄託品の新規7件に対して、返却は44件であった。  寄贈品 中島和田右衛門の丹波屋八右衛門								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
新規寄贈品件数	151件	—	—		26	81	43	23
寄託品件数	2,689件	—	—		2,743	2,750	2,734	2,726
うち新規寄託品件数	7件	—	—		17	39	3	5
登録美術品件数	3件	—	—		3	3	3	3
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用								
【年度計画】									
(4 館共通)									
1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。									
担当部課	学芸部列品管理室			事業責任者	室長 鬼原俊枝				
【実績・成果】									
(寄贈)									
・寄贈は24件で、寄贈者は7人であった。 内訳：絵画11件、陶磁4件、漆工2件、染織7件									
(寄託)									
・新規寄託は93件。展示館の建て替え工事のため、当面平常展示において活用することはできないが、研究資料として、また特別展覧会での活用が見込まれる。 内訳：絵画50件、書跡7件、彫刻7件、金工9件、陶磁11件、漆工2件、染織3件、考古4件									
【補足事項】									
【寄贈】									
・漆工2件のうち革製宝相華文様金具残闕は、京都浄瑠璃寺旧蔵吉祥天立像逗子の革留具と酷似し、おそらく一連をなす、鎌倉時代初頭の非常に珍しい革製品である。 ・染織7件は20年間から30年間寄託されていた3名の個人から寄贈を受けたもので、特に染織裂31枚、人形152種は近代京都画壇の大家入江波光の蒐集品であり、波光の絵画制作資料でもあったと思われる、なかでも人形類は日本を代表する優れたコレクションである。 ・近代の京都には清の滅亡に際して多くの明清美術品がもたらされ、多くの中国美術コレクターが活躍した。こうした京都における明清画享受運動を反映して、当館は優れた明清画のコレクションを形成してきた。今回寄贈絵画のうち9件は当館に長年寄託されていた京都府在住の個人蒐集家から、学芸との信頼関係のもとに贈られたもので、来船清人を主とする日中交流資料でもある。 ・その他、近世後期から近代における朝鮮半島と日本の交流について新たな知見をもたらす資料を含む陶磁4件、京狩野家の三代目狩野永納の雲龍図2幅の寄贈を受けた。									
【寄託】									
・新規寄託はバランスよく全分野にわたって多様な文化財が寄託された。絵画50件のうち約30件は近世京都画壇の作例である。 ・返却した寄託品は85件であるが、そのなかには寄贈を受けたもの、購入したものが約30件含まれている。									
 人形類									
 革製宝相華文様金具残闕									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
新規寄贈品件数		24件	—	—		30	21	102	35
寄託品件数		6,013件	—	—		6,154	5,907	5,957	6,005
うち新規寄託品件数		93件	—	—		117	111	180	107
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

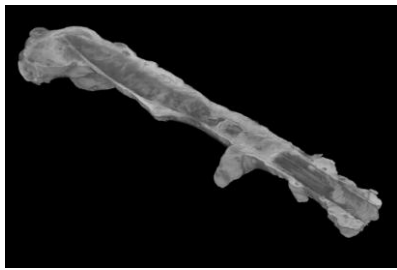
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)ー2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用								
【年度計画】 (4 館共通) 1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹						
【実績・成果】 1) 寄贈の受け入れはなかった。寄託については、新規に9人の所蔵者から12件の作品の文化財を受け入れた。 絵画：3件（絹本着色釈迦三尊十六善神像 1幅 / 奈良県指定文化財 仏涅槃図 1幅 / 奈良県指定文化財 阿弥陀聖衆來迎図 1幅） 彫刻：1件（木造薬師如来坐像 1軀） 書跡：5件（生馬大明神縁起 1巻 / 生馬八幡宮略縁起 1巻 / 紺紙金字大般若経巻第五百八十六 1巻 / 国宝 法華経（一品経）寿量品・法師功德品 2巻 / 重要文化財 大般若経（安倍小水麻呂願経）142巻） 工芸：3件（重要文化財 金銅蓮華形磬 1面 / 銅蓮華形柄香炉 1柄 / 金銅能作性塔 1基）									
【補足事項】 ・絵画部門の寄託品である釈迦三尊十六善神像は、鎌倉時代以降に流布した同画像の中でも、濃く鮮やかな彩色がよく残る優品。 ・彫刻部門の薬師如来坐像は、保存修理の作業中に台座から造像当初の銘文が発見されて話題となった作品。 ・書跡部門の5件のうち、生馬大明神縁起と生馬八幡宮略縁起は、いずれも大和の神祇信仰史の中でも重要な位置を占める往馬大社の歴史に関わる重要な典籍。大般若経は平安時代の装飾経の一例で、当館の展示活動の一つの柱である写経のテーマをより充実させることが期待できるもの。 ・工芸部門の3件は、供養具2件と舍利容器1件であり、いずれも当館工芸部門の重要なテーマに関わる作品で、展示の充実に寄与しうる。 なお寄託品総件数は昨年度に比べ2件減少したが、これは東大寺からの寄託品のうち14件を、東大寺ミュージアムのオープンにともない寺へ返還したことによる。これ以外は、9人の所蔵者から新たに12件寄託を受け入れることができ、寄託品を増加させるための努力は着実に結実していると考え。									
									
木造薬師如来坐像									
【定量的評価】項目		23 年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
新規寄贈品件数		0 件	—	—		2	4	3	8
寄託品件数		1,945 件	—	—		2,057	2,067	1,957	1,947
うち新規寄託品件数		12 件	—	—		113	15	9	6
総合評価	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

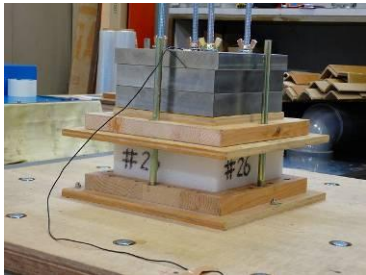
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(1)ー2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用							
【年度計画】								
1) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力する。								
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	主任研究員 原田あゆみ					
【実績・成果】								
1) 寄贈 1 件 (内訳：金工 1 件)								
新規寄託 17 件 (内訳：絵画 9 件、書跡 1 件、彫刻 1 件、染織 1 件、考古 5 件)								
【補足事項】								
・室町時代の「金銅阿弥陀不動毘沙門天像懸仏」1 面の寄贈を受けた。 ・絵画分野の新規寄託品は、東アジアにおいて広く信仰された地藏菩薩の靈験譚にもとづいた絵巻と、中国・唐時代から五代時代にかけて活躍した画僧である禅月大師・貫休(832-912)の伝承作品との関係が注目される水墨画の他、大分県の妙心寺派寺院に伝わり、当館の平成 23 年度特別展「黄檗」に出陳された作品や、臨済宗祖師像などで、東アジアにおける絵画史を考える上で重要な作品である。 ・彫刻分野の新規寄託品の 1 件は、平安時代後期の特色が顕著な半丈六の如来坐像で、展示効果が高い。 ・染織分野の新規寄託品は大分県の妙心寺派寺院に伝わった袈裟で、絵画資料とあわせて文化交流展示の「仏教美術」において活用が期待される。 ・考古分野の新規寄託品の 5 件はいずれも、日本の古墳時代における中国文化の受容の様相を示す資料として、当館の文化交流というテーマにおいて欠くことのできない資料である。また、渡来系の金工技術や古墳時代後期の階層制を示す実物資料として重要な資料であり、有効な活用が期待される。 ・なお、寄託品を 95 件返却したが、うち 3 件は購入の運びとなった。								
								
絹本墨画羅漢図								
【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
新規寄贈品件数	1 件	—	—		10	7	0	4
寄託品件数	1, 219 件	—	—		1, 091	1, 105	1, 256	1, 297
うち新規寄託品件数	17 件	—	—		214	46	197	50
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】								
収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存							
【年度計画】 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (東京国立博物館) 1) 列品存在確認作業(棚卸)を継続して計画的に実施する。 2) 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進める。								
担当部課	学芸研究部列品管理課 学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 富田 淳 課長 神庭信幸					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として1,187件の保存カルテを作成し、蓄積した。 (東京国立博物館) 1) 平成20年度末から実施している、収蔵品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を継続して実施した。 2) 旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進めた。								
【補足事項】 ・列品調査86件、対症修理の実施493件、列品貸与の点検608件、合計1,187件の保存カルテを作成した。 ・列品情報整備事業の本格調査3年目にあたる本年度は、絵画・書跡・彫刻・建築・金工・刀剣・陶磁・漆工・染織・考古・民族・法隆寺宝物・和書(徳川本)・東洋漆工・東洋考古・東洋土俗の諸分野で作業を進めた。平成23年度の調査件数は68,555件である。 ※保存カルテ作成件数の計数方法については、23年度より収蔵品及び寄託品のみを対象とし、特別展等の借用品における応急修理時の保存カルテ作成分は含まないものとした(22年度までは含む)。 ※(参考)従来の計数方法による23年度実績：1,641件								
								
列品情報整備の作業(考古)								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存カルテ作成件数 (23年度より計数方法変更)	1,187件	—	—		1,725	2,693	1,989	2,368
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調						

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(2)－1 収蔵品の管理・保存							
【年度計画】 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。								
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝					
【実績・成果】 ・旧収蔵庫から東収蔵庫に収蔵品を移動して4年が経過しており、箱に納入されていない文化財に関して保存状態を点検し、必要な手入れを行った。 ・半年おきに定期的実施している寄託品の期間継続に伴う点検を実施した。 1) 貸与に伴う点検時を主体として作成を行っている館蔵品の保存カルテについて、今年度は249件を作成した。								
【補足事項】 ・東収蔵庫内での収蔵品管理の状況を確認するために、収納箱等に収納されていない屏風、襖絵、板絵等を対象に保存状態を点検し、襲木の塵埃等を除去するなどの手入れを行った。 ・収蔵品の増加に対応して、より効率的な収納を目指すため、東収蔵庫の軸装品用小型棚3、彫刻用床置き二段棚6を作製し、比較的小形の作品の効率的な収納保管を工夫した。 ・今年度は、細見美術館の「典雅なる御装束―宮廷のオートクチュール」展、静岡県立美術館の「京都千年の美の系譜展」において、当館の館蔵品を多数貸与したことから、保存カルテの作成数が増加した。								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存カルテ作成件数	249件	—	—		140	174	214	108
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2) -1 収蔵品の管理・保存								
【年度計画】 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4 館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所を円滑に運用して、文化財の積極的保存を図る。									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生						
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 保存カルテの作成 ・保存カルテについては、文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成・保管するシステムの運用が軌道に乗ったことで、130 件を順調に作成した。 ・保存カルテのコンディション評価欄に記入された A～E の 5 段階評価についてデータを集計し、現在構築中の館蔵・寄託品データベースに統合するための準備を進めた。 (奈良国立博物館) 1) 文化財保存修理所の運用 ・学芸部と文化財保存修理所において、修理に従事する財団法人美術院、株式会社文化財保存、北村工房の 3 工房代表者との懇談会である今年度第 1 回目の文化財保存修理所協議会を 6 月 8 日(水)に開催し、各工房の修理事業実施状況、修理所施設の維持・管理、工房内の温湿度をはじめとする保存環境改善に関する課題などを討議した。 ・館長以下博物館職員が定期的に文化財保存修理所各工房の修理実施状況を視察する修理所巡回を、3 回実施した。									
【補足事項】 ・12 月 6 日から 12 月 25 日まで当館西新館北第 1 室において保存修理指導室が中心となり準備した特集陳列「新たに修理された文化財」を開催し、近年に文化財保存修理所各工房などで修理が実施された当館館蔵品・寄託品を修理解説パネルとともに展示することで(14 件展示)、文化財修理技術を広く一般に理解してもらい機会とした。 ・文化財保存修理所の施設や事業の概要を紹介することを目的に案内パンフレットを 2,000 部作成し、修理所公開や修理専門技術者による修理所視察などの機会に配布。 ・平成 24 年 2 月 15 日に平成 21 年から続く文化財保存修理所一般公開を開催し、修理所各工房の活動を広く知ってもらう機会とした。									
									
特集展示「新たに修理された文化財」 展示風景									
【定量的評価】 項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存カルテ作成件数		130 件	—	—		103	108	114	218
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承																																										
事業名	(2) -1 収蔵品の管理・保存																																										
【年度計画】 収蔵品の保存・管理を徹底するとともに、現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。 (4 館共通) 1) 収蔵品を中心とした保存カルテを作成する。 (九州国立博物館) 1) 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存を図る。																																											
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 本田光子																																								
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 収蔵品および修理完了資料を中心とした保存カルテを作成した。 (九州国立博物館) 1) 展示品を中心に X 線 CT スキャナ、三次元計測装置や三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は文化財の予防的保存に役立てると共に展示に反映した。また、保存修復施設 1~6 を運用し、計画的な保存修理事業を進めた。																																											
【補足事項】 (4 館共通) 1) 保存カルテの作成は、修理完了作品の他、収蔵品の中から計画的に対象を選定して行っている。本年度は、昨年度に引き続き、所蔵染織品と寄贈陶磁器の保存状況を調査しカルテを作成した。 (九州国立博物館) 1) 特別展『黄檗展』に展示した隠元隆琦倚像、関帝倚像、釈迦如来坐像等の X 線透過撮影と X 線 CT 調査を実施し、諸像の構造・技法と保存状態を詳細に調査・記録した。その結果、像内納入品の発見など 17 世紀後半における仏像研究に関して貴重な発見となった。 特別展『細川家の至宝展』に展示した金銀玻璃象嵌大壺、金銀錯狩獵紋鏡、銀人立像等について X 線 CT スキャナや三次元計測装置による構造技法調査を実施した。その結果、これまでに知られていなかった製作技法を発見した。 また、文化交流展示で展示中の長崎県松浦市鷹島海底沖発見の元寇関連海底遺物に関連して、松浦市教育委員会と協力して海底で錆びついた金属遺物の構造と保存状態の調査を実施した。海底で錆びた武器を X 線 CT 調査することによって、モンゴル軍が使用した武器の実態や遺物の保存状態を明らかにすることができた。その調査成果は松浦市鷹島海底遺跡総集編に掲載した。 文化交流展示で展示した中国青銅器について、X 線 CT スキャナや三次元計測装置による構造調査を実施すると共に三次元プリンタを利用してデジタル複製品を製作した。このデジタル複製品を中国古代青銅器の技法を分かり易く示す展示品として活用した。																																											
																																											
染織品保存カルテ																																											
																																											
X 線 CT スキャナによる長崎県松浦市鷹島海底遺跡出土遺物の調査 (モンゴル軍が使用した片刃の矛)																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th><th>23 年度実績</th><th>目標値</th><th>評価</th><th>経年変化</th><th>19</th><th>20</th><th>21</th><th>22</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保存カルテ作成件数</td><td>107 件</td><td>—</td><td>—</td><td rowspan="3">年 変 化</td><td>252</td><td>289</td><td>205</td><td>101</td></tr> <tr> <td>CT スキャン調査</td><td>60 件</td><td>—</td><td>—</td><td>35</td><td>40</td><td>44</td><td>60</td></tr> <tr> <td>三次元計測</td><td>55 件</td><td>—</td><td>—</td><td>20</td><td>42</td><td>45</td><td>58</td></tr> </tbody> </table>										【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22	保存カルテ作成件数	107 件	—	—	年 変 化	252	289	205	101	CT スキャン調査	60 件	—	—	35	40	44	60	三次元計測	55 件	—	—	20	42	45	58
【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22																																			
保存カルテ作成件数	107 件	—	—	年 変 化	252	289	205	101																																			
CT スキャン調査	60 件	—	—		35	40	44	60																																			
三次元計測	55 件	—	—		20	42	45	58																																			
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)																																										
【中期計画記載事項】 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。																																											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																																							

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-2 施設的环境整備								
【年度計画】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 (4 館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M (総合的有害生物管理) の徹底を図る。 (東京国立博物館) 1) 東洋館の耐震補強改修工事に伴う展示環境の整備を図り、よりよい展示を目指す。 2) 本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 3) 収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたつて調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 4) 展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。 5) 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。 6) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸						
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 収蔵庫など 441 地点における生物生息状況を夏季に調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 (東京国立博物館) 1) 東洋館収蔵庫の工事完了に伴い、内部の空気成分の調査を行うとともに、空調運転による環境改善を図った。 2) 本館地下1階特8収蔵庫を屏風及び掛け軸など絵画専用倉庫として整備した。本館地下1階埴輪収蔵庫に空気清浄機を導入し、ホルムアルデヒドなどアルデヒド類の軽減を図った。 3) 収蔵庫及び展示室など432地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など34地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測し、蓄積した。これらのデータの解析・評価に基づき、平成館特別展示室の温室度環境を改善するための空調時間延長等の実験を実施し、効果を検証した。 4) 東洋館既存収蔵庫内の収納棚に対して落下防止対策の設置を検討し、設置した。 5) 収蔵庫、展示室など169箇所の温湿度に関し、3段階に環境を分類(クラスⅠ、Ⅱ、要注意)した平成23年次報告書を作成した。 6) 文化財の梱包に頻繁に使用される緩衝材が輸送中の振動・衝撃を伝達する際に現れる特性について、発泡ポリエチレン(サンテックフォーム)について引き続き調査を行った。また作品の借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し4件(北京故宮展における輸送など)の輸送状態を調査した。									
【補足事項】 ・中国梱包シンポジウム(ISTA China 2011)(9月21日、蘭州交通大学(蘭州))において「Applying CAE Simulation with Vibration Experiment to Evaluate a Vibration Isolator」を発表した。(神庭 信幸他) ・文化財保存修復学会第33回大会(6月4日・5日、奈良)において「文化財梱包に用いる緩衝材の適切な使用法の検討-ワイヤーロープの振動特性」を発表した。(和田浩他)									
									
文化財梱包に用いる緩衝材の振動特性実験									
【定量的評価】 項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—		—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-2 施設的环境整備								
【年度計画】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 (4館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 (京都国立博物館) 1) 引き続き、平常展示館建替工事を実施する。 2) 平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。 3) 特別展示館(重要文化財 旧帝国京都博物館本館)の耐震調査の結果を基に、地震対策を具体的に検討する。 4) 特別展示館の環境及び当該地域の気象を勘案し、文化財への負荷を減らすことを目的とした空調のミニマムインターベンション(最小限の干渉)運用の向上を図る。									
担当部課	学芸部列品管理室 学芸部文化財管理監	事業責任者	室長 鬼原俊枝 文化財管理監 中村康						
【実績・成果】 (4館共通) 1) I P Mの徹底について、収蔵庫の生物生息及び温湿度状況を把握するため、継続的なモニタリングと定期的な調査を行った。東収蔵庫の環境を維持するために、清掃を行った。 (京都国立博物館) 1) 平常展示館建て替え工事は25年度中開館に向けて進んでおり、24年度4月中に上棟予定である。 2) 東収蔵庫各収蔵室の清掃、空調フィルタの交換等を行うとともに、継続的な生物環境調査を行った。また、中央制御室における収蔵庫の温湿度管理に加えて、東収蔵庫の各収蔵庫の代表温湿度の記録をデータロガーによって継続的に行った。 3) 委員会にて承認された特別展示館耐震補強方針について文化庁と協議を行ない免震化計画に対する理解を得た。 4) 温湿度設定を状況に応じて調整することにより、冬季の展示場を除いて保存環境の改善を行った。									
【補足事項】 (保全業務) ・空調設備機器については、予防的なメンテナンスをきめ細やかな運転監視によって、展示室及び収蔵庫の温湿度環境の適正管理を行った。 ・既存の温湿度センサーは壁面にあるため、東収蔵庫の各収蔵庫のより中央近くにデータロガーを設置して各室の温湿度の代表値とすることとし、温湿度の24時間モニタリングを開始した。 ・中高性能フィルター及び活性炭フィルターの更新を行った。 ・夏季と冬季については、節電要請に応じるために、空調停止実験を行い、作品に影響が生じない範囲での実施方法を策定し、一部で実施した。 ・平常展示館開館準備会議を開催し、審議、検討を行った。 (特別展示館) ・展覧会期中の開館前に個々の陳列品の保存環境を点検した。 ・データロガーによる展示ケース内の温湿度モニタリングを行い、これに基づいて温湿度の調整を行った。 ・7月と10月の展覧会準備期間中に展示ケースと観覧者フロアの蒸散性殺虫剤の散布を行った。 ・汚れている本館内北側の陳列ケース床面のクロスを貼り替えた。 (収蔵庫) ・I P Mの徹底を図るため、東収蔵庫の歩行性昆虫生息調査を100カ所で1ヶ月ごとに行い、さらに各収蔵室で浮遊菌調査及び拭き取り調査により、収蔵庫環境のモニタリングを行った。その結果を踏まえて、冬季に昆虫が侵入し易い機械室の清掃の徹底を図り、昆虫の侵入口となりうる隙間の閉塞工事を行った。なお、各収蔵室等清掃後、収蔵庫各室の歩行性昆虫生息調査及び塵埃のモニタリングを継続するとともに、本館収蔵庫においても浮遊菌調査及び歩行性昆虫調査を約90カ所で継続している。									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



収蔵庫床の拭き取り調査状況

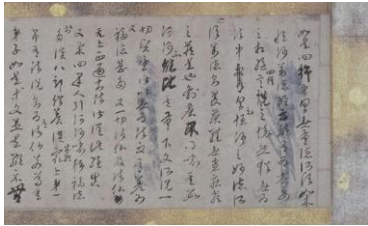
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2)-2 施設的环境整備								
【年度計画】 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。 (4館共通) 1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I P M(総合的有害生物管理)の徹底を図る。 (奈良国立博物館) 1) 展示室及び展示ケースの温湿度管理について、無線LANによるデータ管理システムを更に充実させる。 2) 展示ケース内の温湿度・粉塵量などを継続的に計測し、ケースの調湿性能や気密性能の向上を図る。 3) 収蔵庫及び展示室の適正な温湿度管理の徹底を図る。									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生						
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に、昆虫調査用トラップを1ヶ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。 ・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。 ・収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。 (奈良国立博物館) 1) 展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムを導入し、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することを可能とした。 2) ・展覧会ごとに展示レイアウトに応じて無線LAN温湿度センサーを設置し、期間中に得られたデータを展示終了後に分析して報告書を作成した。 ・正倉院展終了直後の11月15日に、毎年継続的に実施している展示ケース内の粉塵調査を宮内庁正倉院事務所研究員とともにを行った。 3) 展示室内の温湿度については無線LAN温湿度管理システムにより24時間リアルタイムで状況を把握した。収蔵庫及び文化財保存修理所各工房内については、ロガータイプの温湿度センサーを各5箇所程度設置し、定期的にデータの回収、分析を行うことによって温湿度の変化を把握した。									
【補足事項】 ・防虫トラップは展示室収蔵庫文化財保存修理所等150箇所に設置し、1ヶ月ごとに回収したものを外部業者に調査委託し、その結果分析を行い、文化財害虫の侵入の防止に努めた。 ・新造ケースの残留ガス(VOC)をチェックするため、外部機関に検査を依頼するとともに、館内でもパッシブインジケータを利用した独自検査を実施した。 ・自動調湿装置を内蔵した免震ケースを新造し、気象条件や多数の観覧者など外的要因で展示室内の温湿度環境に変動が生じた場合でも、展示ケース内の温湿度を安定して好条件に保つことができた。									
									
文化財害虫調査用トラップ									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—		—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(2)ー2 施設的环境整備							
【年度計画】								
展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境を整備する。								
(4館共通)								
1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I PM(総合的有害生物管理)の徹底を図る。								
(九州国立博物館)								
1) 館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。								
2) 全館的視野に立った陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長	本田光子				
【実績・成果】								
(4館共通)								
1) 収蔵品の生物被害を防止するため、I PMの徹底を図った。文化財搬入に際し、I PMメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺菌処理を実施した。								
(九州国立博物館)								
1) 常設展示室 70、特別展示室約 30、収蔵庫 30 箇所に温湿度計を設置し、環境データを解析した。また、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。								
2) 環境データを解析することで、極めて安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。								
【補足事項】								
・開館 7 年目で展示・収蔵環境をより安定させることができた。今後は安定化を維持しつつ、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。 ・収蔵庫・展示室等の約 300～400 ヲ所に常時粘着トラップを設置し年間を通して、2 週間おきに定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期に発見対処する体制を維持した。 ・地元 NPO 法人やボランティア活動との連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。展示室等一般来館者エリアの温湿度記録や生物モニタリングには、引き続き今年度も両者の協力を得た。 ・平成 23 年度文化庁補助事業・ミュージアム活性化事業により「市民と共にミュージアム I PM」を実施することにより、I PMボランティア活動や NPO 法人等による I PM 支援者活動へのさらなる指導をすすめることができた。 ・殺虫殺菌処置は、特別展やトピック展あるいはイベント用資料等借用や持ち込み資料についての対応である。内訳は二酸化炭素処置 1 件、低酸素法処置 5 件。 ・展示室の毛髪式自記温湿度計が安全かつ正確に機能するように、また記録紙の交換時の利便性も十分に考慮して毛髪式自記温湿度計設置台を製作し、文化交流展示室に 12 台、特別展示室に 4 台、エントランス・あじっば等に 5 台設置。								
								
					地元 NPO 法人によるインジケーター(トラップ)観察の様子			
								
					ボランティアによる記録紙交換の様子			
【定量的評価】項目	23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
殺虫殺菌処置	6 件	—	—		5	6	7	7
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)							
【中期計画記載事項】								
展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積								
【年度計画】 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4館共通) 1) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから73件程度(東京:40、京都:10、奈良:8、九州15)の本格修理を実施する。 (東京国立博物館) 1) 引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2) 保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。(70件程度)									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長	神庭信幸					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイトフェローを配置し、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急(対症)修理を本格化させた。作品の劣化予防のために947件の応急修理を実施し、緊急性の高いものから106件の本格修理を実施した。うち重要文化財1件は寄付金による本格修理である。 (東京国立博物館) 1) 修理計画立案に向け、国宝・重要文化財を含む79件の作品に関して修理仕様の検討を行い、中長期計画策定を行った。 2) データベース構築のために22年度に本格修理を実施した139件の内、修理が完了した114件の修理内容についてデジタル化を実施した。東京国立博物館文化財修理報告書ⅩⅢを刊行した。									
【補足事項】 ・重要文化財「五龍図巻」(中国北宋・13世紀)はバンク・オブ・アメリカからの寄付金により修理を開始した。 ・東アジア文化遺産保存学会第2回大会(23年8月17日～18日、内モンゴル・フフホト市)において「東京国立博物館の臨床保存」を発表した。(神庭信幸他) ・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「東京国立博物館の対症修理—古い額を安全に利用するための工夫」を発表した。(土屋裕子他) ・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「「簡易万能型太巻芯」の利用と展開—博物館における対症修理—」を発表した。(鈴木晴彦他) ・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「ポリエステルフィルムによるブックカバーの実用例—エンキャプシュレーションによる本の保護—」を発表した。(米倉乙世他)									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
修理件数(本格修理)		106件	40件	S		101	75	106	139
文化財修理データベース化件数		114件	70件程度	S		97	85	53	98
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



列品番号 A-10447「柳橋水車図屏風」の修理風景

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)－1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積								
【年度計画】 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4 館共通) 1) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから 73 件程度(東京：40、京都：10、奈良：8、九州 15)の本格修理を実施する。 (京都国立博物館) 1) 文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。									
担当部課	学芸部列品管理室		事業責任者	室長 鬼原俊枝					
【実績・成果】 (4 館共通) 1) ・館費による修理に加えて、外部資金の導入を図り、財団の修理助成による助成金を 2 件得た。また、個人から当館に寄せられた文化財修復のための寄付金を有効に用いた。 ・修理請負候補者の選定にあたっては、公平性、透明性ととともに、企画競争の内容がより技術力主体の競争となるよう、企画書の内容を改訂した。 ・修理請負候補者選定の公平性、専門性を高めるため、外部委員を増やした。 実績 10 件 内訳は絵画 1 件、書跡 4 件、彫刻 1 件、漆工 2 件、染織 1 件、考古 1 件。 (京都国立博物館) 1) 引き続き文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図った。									
【補足事項】 ・修理事業費における外部資金の導入に努め、朝日新聞文化財団の助成を得て、国宝病草紙 10 面の大規模修理事業(4 カ年間助成額約 2000 万円)の実施が決定した。また重要文化財紙本著色若狭国鎮守神人絵系図 1 巻の解体修理に、出光文化福祉財団による 800 万円の助成が決定した。ともに来年度事業開始の予定。 ・当館の収蔵品修理のために寄せられた寄付金を用いて書跡の国宝金剛般若経開題残巻(弘法大師筆)1 巻の解体修理を 2 カ年事業として今年度より開始した。 ・修理に関しては、修理契約委員会において、作品ごとに契約方法を決定し、新規事業 5 件を企画競争、同 4 件を随意契約とした。他 1 件は昨年度からの継続事業である。 ・2 回開催した修理請負候補者選定委員会のうち第 1 回委員会では、企画書の内容を大きく改訂し、第 2 回委員会ではさらに外部委員を分野別として増やし、公平性及び専門性の向上を図った。 ・館蔵品の修理は緊急性の高いものから実施するよう努め、来年度以降 4 カ年の修理計画の策定を開始した。									
 国宝 病草紙 齒槽膿漏の男  国宝 金剛般若経開題残巻 弘法大師筆									
【定量的評価】項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
修理件数(本格修理)		10 件	10 件	A		15	17	5	9
文化財修理データベース化件数		118 件	－	－		－	112	114	106
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積								
【年度計画】 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4 館共通) 1) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから 73 件程度(東京：40、京都：10、奈良：8、九州 15)の本格修理を実施する。 (奈良国立博物館) 1) 修理の中長期的計画を策定する。 2) 修理資料のデータベース化に備えて、継続して年度毎の修理データを蓄積する。 3) 寄託の継続を図る必要性の高い寄託品について修理を実施する。									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長	谷口耕生					
【実績・成果】 (4 館共通) 1) ・館蔵品修理 11 件のうち、新規 6 件、継続事業 5 件を実施した。 内訳 絵画3件 (※うち国宝 紙本墨画淡彩山水図1件は2ヶ年継続事業の2年目。重要文化財絹本着色十王図1件は3ヶ年継続事業の1年目) 書跡2件 (※うち重要文化財 紺紙金字一字宝塔法華経1件は2ヶ年継続事業の1年目) 彫刻 1 件 考古資料 5 件 (※うち二塚古墳出土遺物 1 件は3ヶ年継続事業の3年目、珠城山1号墳出土遺物以下3件は2ヶ年継続事業の2年目) ・年度内に9件が完了した。 (奈良国立博物館) 1) 平成 22 年度に策定した館蔵品の長期修理計画に基づき、計画通りに館蔵品修理を実施している。 2) 前年度に引き続き、当館紀要『鹿園雑集』14 号(平成 24 年 3 月刊行)に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧(平成 22 年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理し、データベース化を進めた。 3) 寄託品 3 件について財団からの助成を受けて修理を実施した。									
【補足事項】 ・賛助会員や協賛企業からの寄付金を館蔵品修理費に使用する規定を新たに策定し、これに基づいて絹本着色十王図(陸仲淵筆)および紺紙金字一字宝塔法華経の重要文化財 2 件の修理に新規着工した。 ・寄託品修理については、住友財団の助成によって大阪・施福寺所蔵舎利厨子修理(住友財団助成)、出光福祉文化財団の助成によって大阪・一心寺所蔵刺繍法然上人絵伝修理、出光文化福祉財団・朝日新聞文化財団の助成によって海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅修理にそれぞれ着手した。									
									
館蔵春日宮曼荼羅の解体修理に伴う表装裂取り合わせ検討風景									
【定量的評価】項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
修理件数(本格修理)		11 件	8 件	A	—	10	8	11	9
文化財修理データベース化件数		54 件	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、F の理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

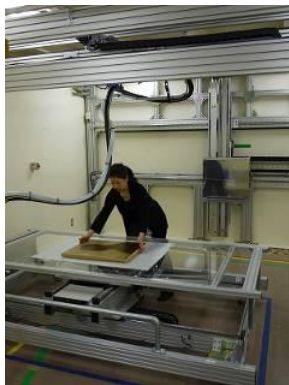
中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ①計画的な修理及びデータの蓄積							
【年度計画】 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 (4館共通) 1) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから73件程度(東京：40、京都：10、奈良：8、九州15)の本格修理を実施する。 (九州国立博物館) 1) 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。 2) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。								
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	保存修復室長 藤田励夫					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財32件(本格修理19件、応急修理13件)を修理した。 (九州国立博物館) 1) 九州をはじめとする館外所蔵者負担による文化財修理19件のために、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。館費による修理とあわせて51件の修理を実施した。(施設内修理47件、施設外修理4件 合計51件)また、漆工修理作品の増加に伴い、漆風呂を1台新調した(3台目)。 2) 修理報告書および修理経過を示す画像データを整理して、データベース化に備えた。								
【補足事項】 (4館共通) 1) 館費による修理件数32件(本格19、応急13) (絵画10(うち応急5)、書跡2(うち応急1)、漆工3(うち応急0)、考古4(うち応急1)、歴史資料13(うち応急6)) (九州国立博物館) 1) 修復施設1～3では、(社)国宝修理装飾師連盟が館所蔵品14件のほか、国宝・那覇市所蔵琉球国王尚家関係資料文書記録類や重要文化財・京都国立博物館所蔵旧円満院宸殿障壁画など20件の修理を実施した。 修復施設4では(財)美術院が2件、5では(株)芸匠が5件、6では目白漆芸文化財研究所が6件の館所蔵品等の修理を実施した。								

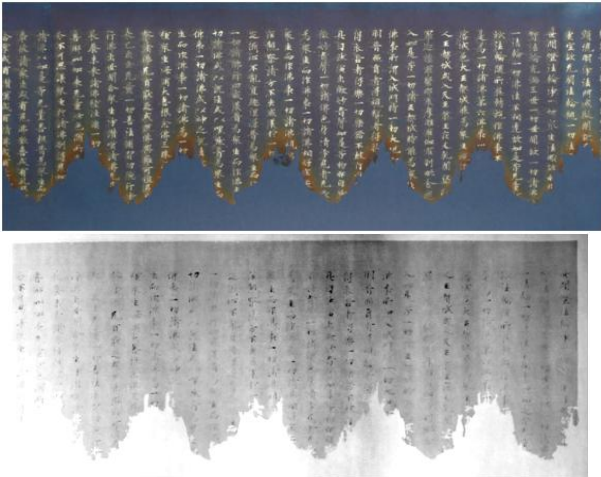
修復施設3での修理風景

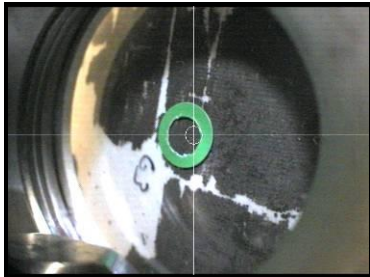
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
修理件数(本格修理)	19件	15件	A		22	25	24	19
文化財修理データベース化件数	—	—	—		—	—	—	—
修復施設の活用(補助事業等)	19件	—	—		8	15	26	23
表具裂データ	0件	—	—		42	32	24	9

総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
------	----------------------	--	--	--	--	--	--	--

【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)－1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4 館共通) 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸						
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を1件(B-3161 偈頌)実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析7件(TJ-2898 刻文匱など)、X線透過撮影13件(C-20 菩薩立像、A-1459 花車図屏風など)、高精細デジタルスキャナーによる可視・赤外域の撮影3件(A-1069 檜図屏風、TA-363 五龍図巻など)、テラヘルツ波分析1件(A-1069 檜図屏風)の科学的調査を実施した。これらの結果を構造調査と修理設計に役立てた。									
【補足事項】 ・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「博物館における包括的保存システムの構築に関する研究(その3)」を発表した。(神庭信幸他) ・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「文化財分野における、デジタルエクス線撮影の現状と課題」を発表した。(荒木臣紀他) ・文化財保存修復学会第33回大会(23年6月4日・5日、奈良)において「テラヘルツ波イメージングの一事例―柳橋水車図屏風(東京国立博物館蔵)の修理前調査を例として―」を発表した。(沖本明子他)									
									
X線透過撮影作業									
【定量的評価】 項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—		—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理							
【年度計画】								
伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。								
(4 館共通)								
1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。								
2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。								
担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員 村上 隆					
【実績・成果】								
(4 館共通)								
1) 当館が所蔵する「紺紙銀字華嚴經断簡(二月堂焼経)」を同館文化財保存修理所の(株)光影堂において修理を行った。本紙料紙および裏打紙は楮繊維、表紙は雁皮繊維という紙繊維組成検査を踏まえて紺紙を作成し補修を行った。								
2) 続いて銀文字部分に対して、顕微鏡観察、X線透過撮影、蛍光X線分析を行い、本紙から脱落した銀泥の薄片に対して走査電子顕微鏡(SEM)観察と分析により、銀泥粒子の詳細を探った。修理工程は、卷子装の解装、本紙の汚れ除去、旧裏打紙及び旧補修紙の除去、本紙欠失箇所への補修、裏打(3層)後、卷子装1巻に仕立てた。旧裏打紙及び旧補修紙を除去した段階で、学芸部が銀字部分の科学的調査を実施した結果、文字はすべて銀で書かれており、本経を「プラチナ経」と呼ぶことはふさわしくないことがわかった。								
【補足事項】								
銀泥は、大きさ5~20 μ m程度の粒子の集合体であり、粒子が薄く扁平に均された様子が窺え、銀泥で書かれた文字の上を猪牙などでみがいた痕跡と考えられる。本研究を通して、文化財修理に伴い、可能な範囲で科学的手法を用いて材質を正確に特定することは、文化財研究においてたいへん重要であることを再認識することができた意義は大きい。								
この研究成果は、平成23年6月、文化財保存修復学会第33回大会で発表した。								
								
上：「紺紙銀字華嚴經断簡(二月堂焼経)」第四紙 (京都国立博物館蔵)								
下：透過X線像								
X線像は、銀泥の濃淡を反映し、写経者の筆の運びを読み解くことができる。								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)-1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4 館共通) 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (奈良国立博物館) 1) 木造作品について、可能なものは木材樹種同定の調査を行い、作品の材料の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品、木造彫刻などのX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生						
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 館蔵紺紙金字一字宝塔法華経〈巻第三、第五〉、館蔵法華経巻第二(蝶鳥下絵料紙)の修理に際して料紙の繊維分析を実施し、補紙として用いる紙の仕様を決定した。 2) ・館蔵春日宮曼荼羅の修理に際し、当館光学調査室の機器を用いて肌裏に残る顔料の蛍光X線分析を実施した。 ・寄託品の海住山寺所蔵阿弥陀浄土曼荼羅の修理に際し、ポリライトを用いて画面の蛍光画像調査を実施し、補絹の状態確認を行った。 (奈良国立博物館) 1) 当館文化財保存修理所で修理施工された木造彫刻作品2件について、京都大学生存圏研究所に委託して樹種同定調査を実施し、その成果を当館研究紀要『鹿園雑集』第14号に掲載した。 2) 古墳出土の鉄器を中心とする館蔵考古資料5件の修理に際し、X線撮影及び蛍光X線による材料分析を実施し、修理方針の決定に役立てた。									
【補足事項】 ・文化財保存修理所各工房が当館館蔵・寄託品を修理するに際して文化財調査を学芸部研究員と共同で実施し、データの収集・共有化に努めた。また同調査を円滑に進めるために当館の備品である光学機器(高精細デジタルカメラ、蛍光X線分析器、ポリライト)を積極的に利用した。 ・京都大学生存圏研究所との間で新たに覚え書きを交わし、従来から継続している木質文化財の樹種同定調査を今後も円滑に進めていくことを確認した。									
									
館蔵春日宮曼荼羅修理時における肌裏顔料の蛍光X線調査									
【定量的評価】項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—		—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)－1 収蔵品の修理 ②科学的な技術を取り入れた修理								
【年度計画】 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4 館共通) 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	保存修復室長 藤田励夫						
【実績・成果】 (4 館共通) 1) 群童遊戯図屏風、徳川家康交趾渡海朱印状等の紙本作品 9 件について繊維同定を行った。 2) ・羅漢図、奈良国立博物館所蔵諸宗祖師像の絵画 2 件について顕微鏡観察と蛍光X線分析、エミシオグラフィー撮影を行ない、使用された絵の具の調査を行った。 ・重要文化財亀甲地螺鈿鞍、重要文化財孔雀鎗金経箱、重要文化財菊蒔絵手箱の漆工品 3 件についてCT撮影を行い内部構造と損傷状況を調査した。紫外線蛍光観察も行い、修理履歴の有無を調査した。 ・重要文化財菊蒔絵手箱についてFT-IR分析およびラマン分光分析を行い、過去の修理で使用された塗料を調査した。 ・新羅古墳資料についてX線透過写真撮影を行い、損傷状況を調査した。									
【補足事項】 博物館内に修復施設と分析機器が設置されている特色を生かし、修理技術者、絵画、書跡、漆工、彫刻、考古などの各専門分野を持つ研究員、文化財科学専門の研究員の3者が共同で修理作品の調査、検討を行い、最善の修理を行うことができた。 特に、絵画作品の裏彩色など修理中でしか見ることができない部分について、科学分析を行うとともに、上記3者による調査、検討を行えたことは、作品の材質と技法についての貴重な情報となった。そのデータは、今後、類似文化財の修理にあたって参考になるだけでなく、作品の価値をも高めることにつながり大変意味深い。 例えば、文化財科学専門の研究員は、【実績・成果】に記したように多くの調査を実施した。このことにより、作品の材質や技法、構造を詳しく知ることが可能となり、安全かつ適切な修理の実施に裨益するところが非常に大きかった。また、絵画、書跡、漆工、彫刻、考古などの専門を持つ研究者と協議しながら修理を進めることができたので、各作品の特色を踏まえ、取り扱いや保管、展示についても十分に考慮した修理ができた。このように、館内で打ち合わせを密にしながら修理を進められる環境にあることが、たいへん有意義である。									
									
羅漢図の裏彩色(部分) エミシオグラフィー像									
【定量的評価】項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
科学的調査		24 件	—	—		10	10	7	7
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名

機構本部・京都・奈良・九州国立博物館

処理番号

1320

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(3)－2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。								
【年度計画】 (機構本部・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館) 1) 文化財保存修理所に関する規定を整備する。									
担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長 藤本 慎也						
【実績・成果】 1) 平成23年1月の業務方法書の改正に伴い、これまで明確な位置づけが図られていなかった文化財保存修理所(京都国立博物館、奈良国立博物館)及び文化財保存修復施設(九州国立博物館)の設置に対し、本部規程第81号「独立行政法人国立文化財機構文化財保存修理所等の供用及び運営に関する規程」において修理所等の供用及び運営に関する規程を制定し、平成23年4月1日より施行した。									
【補足事項】 独立行政法人国立文化財機構文化財保存修理所等の供用及び運営に関する規程（概要） 第1章 総則 第2章 運営委員会 第3章 修理所等の使用者及び修理等を行う文化財 第4章 修理所等の使用許可 第5章 雑則									
【定量的評価】 項目		23 年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	19	20	21	22
—		—	—	—		—	—	—	—
総合評価	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承							
事業名	(3)-3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。							
【年度計画】 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査研究並びに修理に伴う調査研究のための基本設備の充実に向けた検討を行う。								
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部列品管理室 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館総務課	事業責任者	課長 富田 淳 室長 鬼原俊枝 課長 中村 恵 課長 岩崎英明					
【実績・成果】 (東京国立博物館) 東洋館の収蔵庫改修工事の完了に伴い、本館地下収蔵庫等に収納していた東洋関係の文化財を、東洋館の収蔵庫に移動した。これを受けて、絵画・漆工等の文化財をより効率的に収納できるよう収蔵庫の配分を再検討し、新規収納棚等を設置した。新絵画収蔵庫には、屏風を効率良く収納できる専用棚を設計・発注した。東洋館の収蔵庫については、効率的な収納および安全確保のため、ストッパー付き可動棚を設置し、落下防止柵の設置を検討した。 (京都国立博物館) ・収蔵品の増加に伴い、東収蔵庫に保管される作品の一部を移動整理し、より効率的な収納を図った。 (奈良国立博物館) ・増加し続ける研究用図書を収納すべく書架の増設・再配置を行った。 ・収蔵庫等の温湿度環境の測定を実施し、改善・処置を行った(収蔵庫内空調設備の改修)。 ・デジタルカメラ等撮影機材や画像用サーバーの更新・増強を行った。 ・一時保管庫の窓をペアガラスに変更した。 ・光学調査室内に区画を設け、収蔵スペースを確保した。 (九州国立博物館) ・九州国立博物館では、新しい収蔵スペースの確保等について検討中である。								
【補足事項】								
 光学調査室内に設置したパーテーション (奈良国立博物館)								
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
—	—	—	—	—	—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実に図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				